

令和 7 年度 研究部事業報告用紙

理科

部

(1) 経過報告

	月 日	曜日	内 容	会 場
1	4月28日	月	理科部第1回小委員会	磐周教育研究所
2	5月27日	火	理科部第2回小委員会	磐周教育研究所
3	6月23日	月	理科部第3回小委員会	磐周教育研究所
4	7月30日	水	理科実験実技講座→※津波警報のため中止	
5	10月17日	金	袋井森地区理科実験実技講座(夏期中止の代替開催)	袋井中学校
6	11月10日	月	理科部第4回小委員会	磐周教育研究所
7	1月30日		理科部第5回小委員会	磐周教育研究所
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

(2) 反省及び磐周全体に関する課題と改善策

(各研究部の人数・参加者の研修意欲・研修方法について等、いろいろな視点で振り返りをお願いします。)

○実験実技講座については、磐周教研が津波警報により中止になってしまったが、代替として袋井森地区の研修会で小・中学校の教員が一堂に会し講座を行った。個別最適な学び、協働的な学びに向かう授業づくりについて、実際に教員同士が実験することを通して話し合えたことは、校種を越えた視点を獲得する良い機会となった。

● 年々理科部の人数が減少しており、特に小学校教諭の参加者減少が顕著である。そのため、授業発表や教科研究を担う人材の確保が難しく、研究活動の継続性に課題が見られた。理科部に所属していても理科を担当していない教員や再任用教諭の割合が高く、発表者や研究の中心となる担い手を見いだすことに困難さがあった。

● 年度末アンケートからは、研修内容自体への関心や必要感は高い一方で、授業改善や実践への具体的な活用方法に悩む教員が多いことが明らかになった。研修で得た内容を日常の授業にどう生かすかについて、より明確なモデル提示や共有の工夫が求められる。